

I S O / I E C WG21 (IT Asset Management / IT資産管理)  
WG 2 1 国際会議出席報告書

2021年11月26日

篠田 (X-beat)

島田 (デロイトトーマツ)

報告者氏名 : 高橋快昇 (ITAMLAB)

1. 開催場所 : リモート

2. 開催期間 : 2021.11.01-04

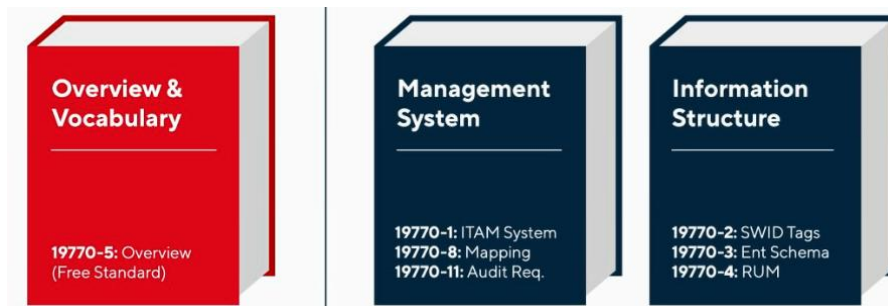
3. 参加国数 / 出席者数 :

28 名 (8 カ国, 6 リエゾン) 米 (10) , 英 (3) , スペイン(1), カナダ(2)、ドイツ (1) 日本 (1) , スイス (1) 、フィンランド(1)、SAMAC(2), ITAM Forum(2), ITAM.Org(1), ITAMOrg(1), iTSMF(1), IAITAM(1), 招待 : FinOps Foundation (Rob Martin) 、OpenChain プロジェクト (Shane Coughlan)

4. 審議事項 :

4.1 WG21 コンビナー報告(Day1) :

• 発行規格



• スダティグループ



• ITAMトレンド

セキュリティチームが永続的な資産の可視性と脆弱性の課題を解決できるようにすることに焦点を当てた新しいテクノロジーとしてサイバー資産攻撃対象領域管理 (CAASM : Cyber asset attack surface management) が紹介された。この CAASM は ITAM と同じデータを多く使用しており、IT 資産を自動

的にマッピングする技術が重要であることが指摘されました。

- 新しいコラボ関連
  - ✓ The Linux Foundation
    - ・ OpenChain (Opensource License Management)
    - ・ SPDX(Software Bill of Materials)
    - ・ FinOps(Cloud Financial Management)
  - ✓ IEEE P828 for Configuration Management(For Hardware BOM)

## 4.2 既存及び新規プロジェクトの状況

### 4.2.1 19770-1 要求事項 第4版(Day1)

改版サイクルの5年であること、SC7の作業指針のMSSに関する付属書SLの改版に合わせること、また、現在、改版中のISO/IEC 55001 アセットマネジメントとも同調する必要があることなどもあり、当規格も改版を行わなければならないことが指摘された。改版に当たって10で行ったような市場調査が了承された。これについては、ITAM Forum のマーチンが協力を志願している。この評価には、ツールプロバイダーやサービスプロバイダーの標準への適合性の評価を行う項目を追加することが合意された。

また、ITAM は、データ、プロセス、ポリシーといった観点が強調されるが、SAM はインベントリとか追跡といった業務に視点が当たるので ITAM と SAM といったより大きな分類として扱ってもよいのではという意見もあった。

### 4.2.2 19770-2 ソフトウェア識別タグ第3版(Day2)

エディターの出席がなかったので特に進展なし。

### 4.2.3 19770-3 権利スキーマ 第2版(Day3)

エディターのジョン・トメニー (John Tomeny) 氏から開発状況の説明があった。今まで、当規格は、一部の SAM ツールプロバイダー (1E - AppClarity, assafras Software、Cisco (ベンにより追加された)) によりテストされているが、主要ベンダーの大多数はタグを提供していない。原因は、Ent の正当性の要求事項である箇条 6.4 を意識しすぎていること、また権利のライフサイクルの記述が複雑すぎることにある。これらは必須の要求事項ではないが導入しようとするとなかなかハードルが高いものとなる。よって7と連携した導入サンプル (権利テンプレート) の提供が重要であるとのコメントがあり、例えば、Device-based, user-based, subscription, Open source, concurrent, processor-based などのテンプレートの必要性が提案された。また、前回も提案されたが、ENT の正当性を保証する手段としてブロックチェーンの採用も検討すべきとの提案があった。

### 4.2.4 19770-4 資源利用測定 第2版(Day3)

前回、リック・シェパード (Rick Shepherd) 氏が (Project editor) , ベン・ストリックランド (Ben Strickland) 氏が Co-editor になり、24 カ月の SDT (Standard Development Track) で IS を開発することになっていたが、リックが退任したため、ベンが状況報告を行った。今後、ベンがプロジェクトエディターになる。今回の更新では後払い方式やクラウドサービスなど、最近の使用例を提供することを目指していることが報告された。RUM レポートに記述されるアセット、及びメトリック、資格、又はその他の外部タグに関連付ける方法などの例もテンプレートに追加すべきであること。19770-7 のガイダンスに沿った取り組みとして、関連付けをサポートするためのデータ リンクの問題についても説明すること。また、他のタグ標準と同様に、JSON 形式も提供することが合わせて提案された。2022 年半ばの完成を目指しているとのこと。

#### 4.2.5 19770-5 概要及び用語第3版(Day3)

PeterとRameshにより開発状況が報告された。現在までに、既存の19770シリーズの用語と定義ドキュメントへの相互参照及び伝道SGの提言をもとにしたITAMの概要の改訂は完了している。現状課題となっている点は、ITAMの実装に関するISO/IEC 19770-10 ガイダンスや他の進行中の標準の用語を組み込むかどうかであるが、これらは今後変更される可能性があるので考慮しないことが確認されました。

次のステップは、ドキュメントの前文での改訂を継続し、WG21のフィードバックを反映し直ちに公開に移るとのこと。フィードバックの締め切りが2021年11月12日まで延長された。

#### 4.2.6 19770-6 ハードウェア識別タグ、19770-7 タグオーケストレーション TR (Day2)

プロジェクトリーダーのリック・シェパード(Rick Shepherd)氏が他の案件でWG21に参加できなくなったので、急遽、共同執筆者のベン・ストリックランド(Ben Strickland)氏より説明があった。

19770-7については、ITAMの要求事項を満たすには、情報構造を規格化したタグの有効利用が必要であり、タグオーケストレーションのワークフローとタグのライフサイクルと一連のタグの相互運用を管理するプロセスをどのように提供するかを示す必要がある。利用可能なすべてのタグを使用しての構築方法、それぞれのタグの関連がサービスライフサイクルイベントでどのように進化するか、データソースが相互に同期して保持される方法を説明する。

現在の問題として、タグリポジトリの重要な役割を果たしていたTagVault.orgの解散ですが、その機能や計画をどの程度GRCschema.org置き換えることができるかについての調査、並びに代替手段を検討する必要があると考えている。また、前回リックがレイ・アレン社のタグジェネレータで、タグオーケストレーションのワークフローを説明していたが、寄付/利用の可能性について調整中とのこと。

起案は2021年末までに始まり、2022年末までに完了する予定。チームは毎週ミーティングを行い、活動を続けているが、追加のチームメンバーは歓迎するとのこと。

19770-6に関しては、WG21内の複数のレビューが完了し、JSONのタグ構造が追加されている。WG21は、NWI/CD投票を承認したのでSC7より近々正式な投票依頼が来る予定。(11/22現在まだ来ていない)

リックの退任に伴い、19770-6のプロジェクトエディターにレイ・アレン社のベン・ストリックランド(Ben Strickland)氏、また、19770-7のプロジェクトエディターにロリー・キャナバン(Rory Canavan)が選任された。

#### 4.2.7 19770-9 IT Asset Inventory Specification (Day2)

エディタが不参加のため、進展なし。

#### 4.2.8 19770-10 ガイドライン TR(Day1)

2020年12月から月次のミーティングを行い現在の最新版はV0.9。前回の報告からの追加は、クラウドコンピューティング、ネットワーク&ストレージ、オープンソースソフトウェアのものであり、各関連SGからの情報を追記している。レビュー方法として、Microsoft Teamsを利用して行っていることが紹介された。今後の予定は、次のようになっている。

- 2021.12.1 2021 v.9 へのコメント締め切り
- 2022.1.10 SGで承認されたドラフトの承認
- 2022.3.7 SGへのドラフト配布

- 2022.6.13 SG で承認されたドラフトの WG21 への配布
- 2022.6 plenary 会議で投票方法などの決定。

### 4.3 スタディグループ（SG）報告

#### 4.3.1 ITAM Charter & WG21 Strategy SG（Day3）

市場動向、19770-1 の次期版に対する考え、及び公開プロジェクトのポートフォリオなど、対処する必要があるいくつかのセクションについて説明があった。

#### 4.3.2 Cybersecurity, Block Chain & ITAM SG（Day4）

Jiri Kocab により、サイバーセキュリティとブロックチェーン SG に関する最新情報を提供があった。研究グループは、サイバーセキュリティを 19770 ファミリの標準に適用するときのホワイトペーパーの開発している。このホワイトペーパーでは、ITAM コミュニティ向けの実践的なガイダンスと、ITAM 実践者向けのベストプラクティスを提供する。合わせて、企業のサイバーセキュリティ戦略に ITAM が積極的に参加する場合の位置付けと議論を支援する予定です。これにより、19770 ファミリの標準の採用が促進されることを狙っている。

対処する予定のトピックは、資産の可視性、ソフトウェア、ハードウェア、リスクのあるデータ、アクセス権、資産の盗難と紛失、調達、クラウドとデータセンター、使用法、パッチ管理、および一般的な認識と教育です。

#### 4.3.3 Open Source & Containers SG（Day2）

当 SG によるオープンソースとコンテナの考慮事項が、19770-10 研究グループに提供されています。オープンソースライセンスのコンプライアンスと従来の商用ソフトウェア管理との主な違いは、ソリューションまたはサービスの一部としてソフトウェアを再配布する際に、ライセンスに関する要求事項があることです。これらは、ソースコードの帰属、通知、アップストリーム、提供方法などですが、ライブラリ、ソースコード、またはソフトウェアのオープンソースライセンスを理解することが重要となります。従来の ITAM チームが一般に取り組んでいないソフトウェア開発と著作権であり、同じライフサイクルに従っていません(調達がなかったり、更新日などの契約がなかったりします)。そのため、ITAM チームのスコープの一部として、ITAM チームに必要な特別なガイダンスと注意が必要です。

現在の 19770-1 の「ライセンス管理」では、オープンソースを除外しませんが、オープンソースの再配布要件を表す記述が足りないように見えるので、当 SG では、19770-1 Ed. 4 に対して OSS のドラフトを提供しようと考えているとのこと。

WG21 で 19770-10 への追加執筆と 19770-1 第 4 版への追記が承認されました。

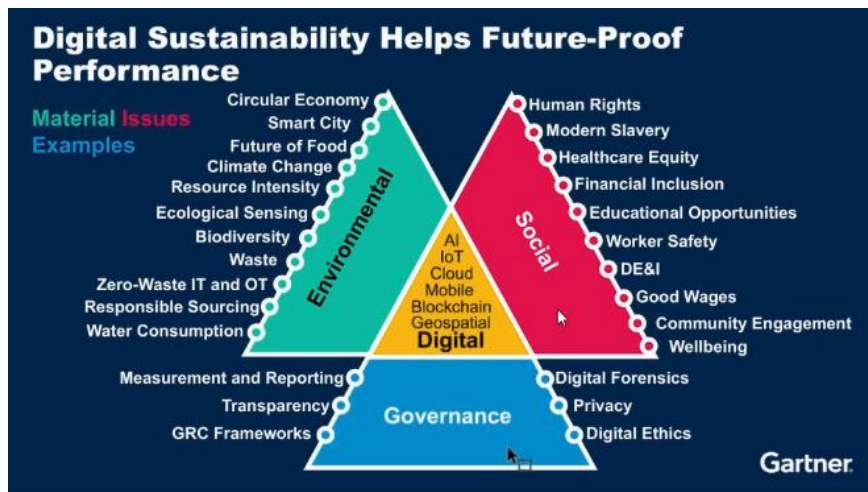
#### 4.3.4 Sustainability SG（Day1）

SG が取り組んできたホワイトペーパーの説明があった。このホワイトペーパーの目的は、IT 資産管理と IT 管理の幅広い専門家に、IT 実践の持続可能性を取り入れることを促す。単にエネルギー消費に焦点を当てるのではなく、ソフトウェア、ハードウェア、クラウドサービスの構築を行うリソースを含む IT サービスのライフサイクル全体への影響にも焦点を当てている。この出版物は、ITAM フォーラム（<https://itamf.org/new-wg21-white-paper-itam-and-sustainable-it/>）によって促進されるだけでなく、itamstandards.org で公開される。プレス公開は 11 月の第 2 週です。内容は 3 部に別れ、1 部：ITAM がどのようにサステナビリティに貢献するか。第 2 部：ITAM と経済的な循環。第 3 部：IT 資産の有効な延命（再利用の長所・短所、再配置の選

択、ITAD パートナーの選択) などからなっている。

— 1、— 6、— 2、— 5、— 10 に Sustainability を明確に追加していくべきとの提案がありました。

Ron から Sustainability にとって IT のデジタル技術が重要であることが以下の絵での紹介された。



#### 4.4 その他の報告

##### 4.4.1 ITAM Forum と Certification (Day 1)

ITAM Forum の伝道活動と認証について近況報告があった。ITAM Forum は ユーザボードとして新たに Salome Hugo さんが加わり 9 名になっている。業界からは、新たに 3 名が参加することになったが、4 名が退任し 7 名になった。

<https://itamf.org/news/itam-forum-begins-process-of-creating-world-s-first-itam-iso-certification-program-with-appointment-of-secretariat>

認証については、組織が 19770-1 に準拠していることを証明できる認証スキームの開発状況の説明があった。開発は、オランダの国家基準機関(NEN)と協力して、100 人のボランティア専門家と共に作成されている。主要な執筆は 2021 年末まで行われる予定で、1 月にドラフトレビューが行われる。 出版予定は 3 月。

##### 4.4.2 OpenChain (Day 2)

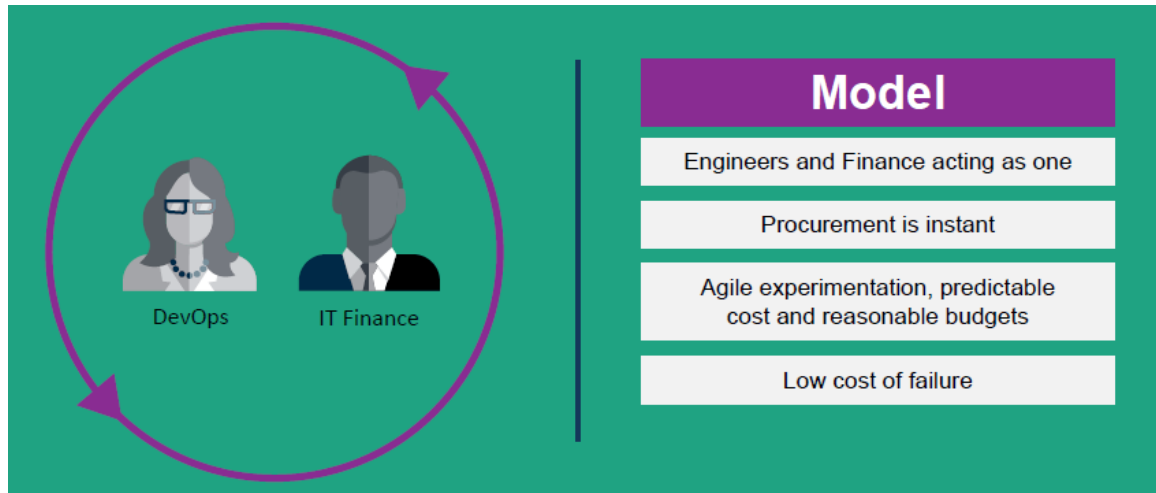
OpenChain プロジェクト (openchainproject.org) のシェーン・クーラン (Shane Coughlan) 氏より、OpenChain の概要が報告された。OSS におけるライセンス順守を規定している。ISO/IEC 5230 としても規格化されている。技術的な仕様、教育用資料が公開されている。( <https://github.com/OpenChain-Project> に日本語も公開されているので参照することをお勧めする。)

また、OpenChain の情報記述の規格である SPDX (The Software Package Data Exchange) ISO/IEC 5962:2021 についても簡単な紹介があった。これには、日本の SC7 からも WG21 が中心となって投票コメントを出している。SPDX は SBOM にもすでに対応しており、Microsoft も SPDX で SBOM を作成する方針であることが 10 月に報告された。

##### 4.4.3 FinOps & ITAM (Day4)

FinOps 財団のロブ・マーティン (Rob Martin) 氏により、FinOps と FinOps 財団についての紹介があった。

FinOps は、クラウド型の財務管理であり、文化的慣行のことで、テクノロジー、財務、およびビジネスチームをデータ主導の支出決定で支援することにより、組織が最大のビジネス価値を獲得できるようにしようとするものである。FinOps では、チームがコラボレーションすることを原則としており、集約されたチームが FinOps を推進している間、全員がクラウドを使用できる。レポートへのアクセスはタイムリーである必要があり、意思決定はクラウドでのビジネス価値に基づいて行われ、変動費モデル（固定費を変動費化すること）を適用しているとのことであった。



FinOpsとITAMが別々に作業することは非効率を解消するために、連携の必要性が議論された。WG21としては、Linux 財団をクラス A リエゾンとして SC7 に追加するか、それができない場合はクラス C リエゾンを WG21 に追加するか、または、FinOps 財団、OpenChain 財団、及び SPDXWorkgroup を個別のクラス C リエゾンとして追加することが承認された。

#### 4.5 レゾリューション

ROW	REF	#	RESOLUTION	T1	Owner	STATUS
617	20INT04	W	19770-3 Editors to collect comments or feedback for SPDX 3.0 which is being submitted by the JDF as a PAS standard through JTC1 PAS Submission process. Once collected, provide comments to WG21 members to send to respective National Bodies by a specified date.	WG21	JT & DC	C->O
631	21SC72530	P	JTC 1/SC7 instructs its Secretariat to distribute, when available, Revision of ISO/IEC 19770-1 (Ed.4) — IT asset management — Part 1: IT asset management systems — Requirements for NP and/or CD ballot. If and when the NP is approved, JTC 1/SC 7 instructs its Secretariat to:	19770-1	RB	A->C

ROW	REF	#	RESOLUTION	T1	Owner	STATUS
			<ul style="list-style-type: none"> <li>• Assign the project to WG21</li> <li>• Appoint Ron Brill (US) as project editor</li> <li>• SDT: 24 months</li> </ul>			
632	21SC7253 1	P	<p>JTC 1/SC7 instructs its Secretariat to distribute, when available, Revision of ISO/IEC 19770-4 (Ed.2) — IT asset management — Part 4: Resource utilization measurement for NP and/or CD ballot. If and when the NP is approved, JTC 1/SC 7 instructs its Secretariat to:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Assign the project to WG21</li> <li>• Appoint Rick Shephard (US) as project editor and Ben Strickland (US) as co-editor</li> <li>• SDT: 24 months</li> </ul>	1977 0-4	RS, BS	A->C
633	21SC7253 2	P	<p>JTC 1/SC7 instructs its Secretariat to distribute, when available, ISO/IEC TS 19770-9 — IT asset management —IT Asset Inventory Specification for NP and/or DTS ballot. If and when the PDTS is approved, JTC 1/SC 7 instructs its Secretariat to:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Assign the project to WG21</li> <li>• Appoint Roel Decneut (US) as project editor</li> <li>• SDT: 12 months</li> </ul>	1977 0-9	RD	A->C
634	21SC7253 3	P	<p>JTC 1/SC7 instructs its Secretariat to distribute, when available, ISO/IEC TS 19770-12 — IT asset management: Guidance for Open Source &amp; Virtual Containers for NP and/or DTS ballot. If and when the PDTS is approved, JTC 1/SC 7 instructs its Secretariat to:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Assign the project to WG21</li> </ul>	1977 0-12	TA	A->C

ROW	REF	#	RESOLUTION	T1	Owner	STATUS
			<ul style="list-style-type: none"> <li>• Appoint Trent Allgood (US) as project editor</li> <li>• SDT: 12 months</li> </ul>			
635	21SC72534	P	<p>JTC 1/SC7 instructs its Secretariat to distribute, when available, ISO/IEC TS 19770-13 — IT asset management: Guidance for ITAM &amp; Sustainability for NP and/or DTS ballot. If and when the PDTS is approved, JTC 1/SC 7 instructs its Secretariat to:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Assign the project to WG21</li> <li>• Appoint Martin Thompson (ITAM Forum - Cat C Liaison) as project editor</li> <li>• SDT: 12 months</li> </ul>	19770-13	MT	A->C
636	21PLN01	P	WG21 Convenor to work with JTC 1/SC 7 Secretariat to remove Jason Keogh (Ireland) and add Ben Strickland (US) as co-editor to ISO/IEC 19770-7.	19770-7	RB	A->U
637	21PLN02	P	WG21 Convenor to work with JTC 1/SC 7 Secretariat to remove Geoff Worsley as co-editor to ISO/IEC 19770-10.	19770-10	RB	A->F
638	21PLN03	P	WG21 Convenor to work with JTC 1/SC 7 Secretariat to work with the ISO TPM to fix the URL links included in 19770-8	19770-8	RB	A->F
643	21PLN08	W	It was resolved that all project editors should rely on 19770-5 for terms and definitions wherever possible.	WG21	RB	A->C
651	21PLN16	W	WG21 asks its Convenor to inquire with IBM and the former people involved with 19770-4 on current adoption of the standard and changes needed	WG21	RB	A->F



ROW	REF	#	RESOLUTION	T1	Owner	STATUS
653	21PLN18	W	It was resolved to request the Open Source & Virtual Containers SG to create an article, and to work with both the -7 & -10 teams to incorporate the Network & Storage subject matter into these projects as appropriate	WG2 1	TA	A->C
654	21PLN19	W	It was resolved to request Matt Marnell to work with both the -7 & -10 teams to incorporate the IoT subject matter into these projects as appropriate	WG2 1	MM	A->C
655	21PLN20	W	It was resolved to request Rick Shepherd to work with both the -7 & -10 teams to incorporate the Network & Storage subject matter into these projects as appropriate	WG2 1	RS	A->F
658	21PLN22	W	it was resolved to request Dave Waltermire to incorporate SBOM considerations as well as modifications required for -6 compatibility in the 3rd edition of - 2	WG2 1	DW	A->C
659	21PLN23	W	It was resolved to have Rory Canavan & Kylie Fowler create a 19770-8 mapping between ITAM Accelerate and 19770-1:2017.	1977 0-8	RGC, KF	A->F
660	21PLN24	W	It was resolved for the Secretary to send a communication asking WG21 for comments on the 19770-6 and 19770-10 Drafts. Responses to be provided by July 29th.	WG2 1	TA	A->F
666	21INT04	W	It was resolved to extend the "19770-10" SG with a new Terms of Reference (TOR) (N2139) led by David Bicket.	WG2 1	DB	F
669	21INT07	W	It was resolved to have the 19770-5 feedback deadline extended. The Editors have asked	WG2 1	RJ, PB	F

ROW	REF	#	RESOLUTION	T1	Owner	STATUS
			that any vocabulary changes are provided by November 12th 2021.			
670	21INT08	W	It was resolved that WG21 approves the current draft of 19770-6 ed. 1 for NWI/CD Ballot.	WG21	BS	F
672	21INT11	W	It was resolved to have the 19770-1 Editor consider adding language which would allow the measurement of tool providers and/or service providers on their alignment to the standard.	WG21	RB	C
673	21INT12	W	It was Resolved to have the Secretary provide expanded language to the 19770-10 SG, and 19770-1 for the Open Source use case.	WG21	TA	C
675	21INT14	W	It was resolved to replace Rick Shephard and Ben Strickland with Rory Canavan as project editor for 19770-7.	WG21	RGC	F
676	21INT15	W	It was resolved to remove Rick Shephard as project editor for 19770-4.	WG21	BS	F
677	21INT16	W	It was resolved to replace Rick Shephard with Ben Strickland as project editor for 19770-6.	WG21	BS	F

## 5. 今後の開催予定

- 2021 Interim Meeting : 1-4 Nov 2021, Virtual
- 2022 Plenary Meetings : May/ June 2022 未定      Dec 2022 : Virtual

以上.